

# 令和 8 年度天栄小校内研究実施計画書

## 1 研修主題及び教科

「自ら学び続けるこどもの育成」  
～『意図』をもって学び方を選択し、深い学びの実現を目指す～  
教科：全教科・全領域

## 2 主題設定の理由

本校は令和 8 年度から、旧合川小、旧天名小、旧郡山小の 3 校が再編され新たに天栄小学校として開校した。昨年度から 3 校は共通の研修主題「自ら学び続けるこどもの育成～未来を切り拓く天栄のこども～」を掲げ、これまで 3 校で培われた取組を継承し、先進的な教育を実践する学校を目指し取組を進めた。その際に文部科学省「リーディングDX事業」の指定校として旧郡山小、連携協力校として旧合川小、旧天名小が務めICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びの実践に取り組んできた。

この取組により、ICTを積極的に活用し、こども一人ひとりの個別最適な学びを求めた授業スタイルの実践を積み重ねることができ、授業者、学習者ともに、スプレッドシードによる他者参照の効果等を実感することができた。一方、こどもたちに学びを選択させる場や学びを委ねる場面を意識して取り入れたが、こども一人ひとりが深い学びを実現していたのかについては課題が残った。また、どんな授業においても改めてクラスの「なかまづくり」が授業の土台となっていることも再確認することとなった。

天栄小が開校し、こどもたちは、前所属学校のこどもたち同士での関わりに留まり、人間関係も希薄している状態である。安心したクラスづくりに取り組むことも最優先であり、授業を通してクラスづくりを形成していく視点をもち研究に取り組んでいく必要がある。

以上を踏まえ、今年度は次の 3 点を意識する必要がある。

- ・めざすこども像を明確にもつ。
- ・めざすこども像に迫るために意図をもった手立てを講じる。
- ・深い学びの捉え方を整理し、具体的な手立てを講じる。

よって、本年度は、昨年度の 3 校の研修主題を継承しつつ、副題に「『意図』をもって学び方を選択し、深い学びの実現を目指す」とした。

### 3 研究の構想図

#### 【めざす学校像】

生きるための基礎となる確かな学力、豊かな心、健やかに身体を育む学校  
誰もが自分らしく輝き、安心して過ごすことができる学校  
地域や保護者に信頼され、ともに創造する学校

#### 【めざすこども像】

主体的・自律的・協同的に学び続け、新たな価値を創造するこども  
多様性を認め合い、尊重し、自分らしく輝くこども  
困難に立ち向かい、しなやかに生きるこども

こどもの思い

保護者・地域の願い

学習指導要領

教師の願い

#### 研究 主題

#### 「自ら学び続けるこどもの育成」

～『意図』をもって学び方を選択し、深い学びの実現を目指す～

各教科で  
めざす  
こどもの姿

- ・自ら学び続けるこども
- ・深い学びを実現するこども

教材研究・  
教材開発の  
充実

教育課程  
特例校

生成AI  
パイロット校

#### 【3つの視点を意識した授業】

- ①授業者の深い教材理解
- ②課題の精選と他者意識をもった学び合い
- ③ふり返り活動によるメタ認知

授業力向上  
の研修

学習規律の  
定着

みえスタ  
全国学調の  
分析

情報活用

キャッチコピー  
「そこに意図は  
あるんか!？」

#### 4 めざすこども像について

めざすこども像をより具体化したものを以下のように定める

目の前の課題に対して、自分の目標をもち他者と協働しながら課題を追究し続けるこども

そして、各学年でめざすこどもの姿を以下のように設定する。

各学年でめざすこどもの姿

|     |                                                                          |
|-----|--------------------------------------------------------------------------|
| 低学年 | 身近な不思議に興味・関心をもって挑戦し、失敗しても工夫して解決しながら、わかったことを生活の中で進んで使ってみようとするこども。         |
| 中学年 | 見通しを持って自分に合った学び方や友だちとの協働を自ら選び、試行錯誤しながら解決したことを次の学習や生活に生かそうとするこども。         |
| 高学年 | 自ら立てた目標に対し、教科の見方・考え方や他者との協働を駆使して粘り強く追究し、得た学びを社会や自らの生き方へと主体的に使いこなしていくこども。 |

#### 5 深い学びを実現する姿

深い学びを実現する姿を以下のように定める。

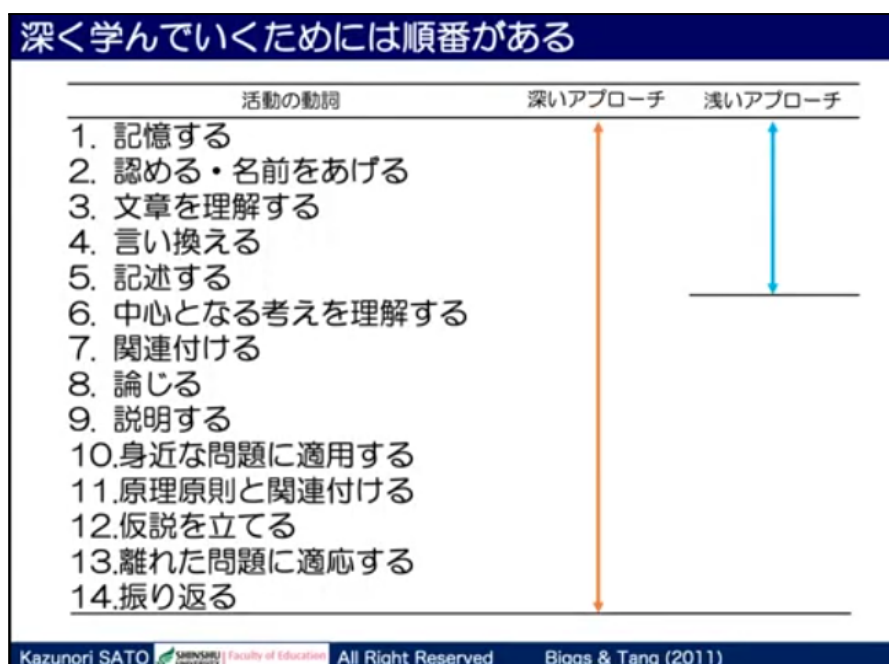
既存の知識や他教科との『つながり』を実感し、他者や書籍等との対話を通して自らの考えを比較・変容させながら、学んだことを自分の言葉で再構築して表現する姿

習得した知識等を別の学習時間や違う単元、他教科、生活の場で共通点を見出したり、関連づけたり、紐づけたりする姿を深い学びの1つと捉える。また、他者との対話を通して考えを確かなものにしたり、自分の考えを変容させたりして、自分の学びに生かすことができるようにすることも重要と考える。

深い学びを実現するために、佐藤<sup>1)</sup>は3つのステップ【図1の1～4の「基礎・基本の定着」（以後ステップ1）、図の5～10の「応用・分析」（以後ステップ2）、図の11～14の「創造・探究」（以後ステップ3）】があると述べている。ステップ1は、「覚える」「文章の内容を理解する」など、知識等の習得が中心であり、ステップ2は、「自分なりに言い換える」「関連づける」「身近なことに当てはめる」など習得した知識を活用する場を探ったり、様々な知識を関連付けたり、紐づけたりする段階を指す。ステップ3は、「仮説を立てる」「新しい問題に応用する」など関連付けた学びを活用したり、発揮したりする段階を指す。

こどもたちの学びをより深くするためには、授業者が單元ごとに3つステップを意識しているかが前提となる。そして、どの知識と知識が紐づいているのか、得た知識を活用できる学びの場面はどこに当たるかを授業者が正しく理解するためにも、学習の系統性を押さえておくことも必要である（図2）。

図1



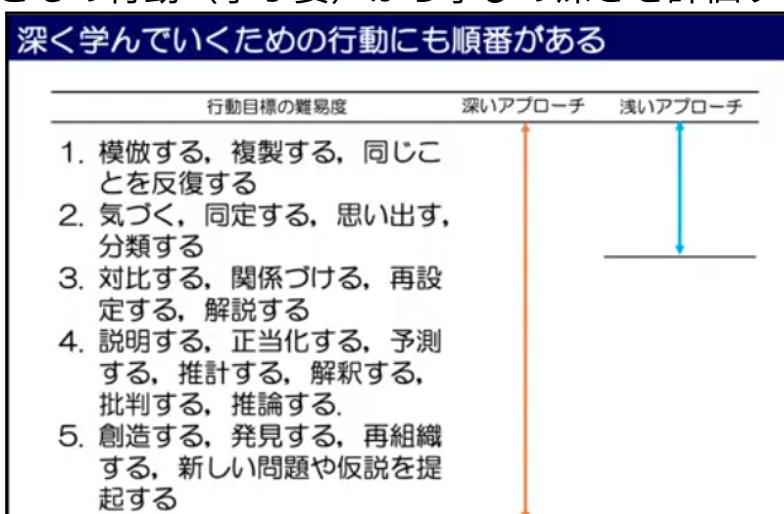
佐藤の資料から抜粋

図 2



佐藤の資料から抜粋

図 3 こどもの行動（学ぶ姿）から学びの深さを評価することが可能



佐藤の資料から抜粋

このように深い学びは、段階を踏まえながら実現していくことがわかる。また、次の2点を実現することで、授業者と子ども双方が学びを深めようとする集団になると考える。

- ・授業者自身が、その単元における深い学びを実現する。
  - ・子どもたち自身も深い学びを実現するイメージを共有する。
- そこで、次のような掲示物等を教室に掲示する。



佐藤の資料をもとに天栄小江崎がGeminiで作成

## 6 研修主題の達成に向けて大切にする『3つの視点』

### 「共通認識」(そこに、意図はあるのか！？)

- ・学習の型に囚われず、単元でめざすこどもの姿にせまるための手立てを取り入れる。

(例) LDだから、一斉指導しない方がいいのか・・・ (×)

⇒本時でこどもたちの学びが停滞しているのなら、一度活動を止めて一斉指導等の手立てを講じるべき。大事にするのは型ではなく、こどもを目指す姿に導くこと。

### ①授業者の深い教材理解

- ・単元全体を通した教材理解を行い、本単元における深い学びのこどもの姿を想起し、得た知識を既習事項と関連付けたり、発揮できる学習の場を準備する。
- ・学習の見通しをもつために、単元計画や単元のゴール(単元後のこどもの姿)を授業者と学習者が共有する。
- ・課題の設定においては、こどもの実態にあったものや実生活などの関わりを感じられる課題を設定する。
- ・「ルーブリック」など活用し、一人ひとりが目的意識をもって学習に向かう環境を整える。
- ・発達段階、学習内容によって、学ぶ相手やツールを意図をもって選択できる環境を整える。
- ・こども一人ひとりの考えを形成、表現方法の精選を高めていくために情報の時間を活用し、そこで得た学びを教科活動等で活用する。

### ②課題の精選と他者意識をもった学び合い

- ・課題を精選する。

(例)

| 学び合いがうまれる課題                                                                                                                          | 学び合いが生まれにくい課題                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・資質・能力の育成につながる課題</li><li>・1人では簡単に解けない課題</li><li>・既習事項を発揮する課題</li><li>・こどもたちの実態に即した課題</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・知識だけを問う課題</li><li>・1人で簡単に解ける課題</li><li>・興味や関心だけに偏りすぎた課題</li><li>・こどもたちの実態と乖離した課題</li></ul> |

- ・一方的な教授や、答えを教えるだけではなく、他者意識をもった協働に取り組む。

(例)

| 他者を意識した学び合いで生まれる言葉                                                                                                              | 他者を意識していない学びの言葉                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこまでできた？</li> <li>・どこの部分で困ってるの？</li> <li>・ここまで理解できた？</li> <li>・一度、ここまで説明してみて</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（相手の状況を確認せず）これはこうやるんやよ。</li> <li>・答えは〇〇。OK？</li> <li>・答え教えて。</li> </ul> |

- ・「わからない」を授業者も学習者も価値あるものとして捉える。
- ⇒「わからない」という発言があると、他者は別の言い方で伝えたり、例を用いて表現しようとする。結果的に、「わからない」を受信したものは、相手が理解するために、学びが深くなる。一方、「わからない」を発信した方も、他者と協働することで困り感を解消することができるため、双方の学びを促進する価値あるものとして捉えられる。

### ③ふり返し活動によるメタ認知

- ・振り返りを行う意図を授業者と学習者で共有する。
- ・スプレッドシート等に自分の振り返りを蓄積し、学びの足跡を振り返らせ、自己の変容や成長を自覚させる。
- ・自分が意図をもって選択した学び方の効果等を振り返り、自分の学びを評価する。
- ・ふり返しは基本、学習内容、学習方法、自己の変容の視点をもって書かせる。

## 7 学習の基盤となる力を育む取り組み（職員間の共通認識）

### （1）学習規律

|       |                                                                                                                                                                                                             |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 筆箱の中  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆 5～6 本</li> <li>・消しゴム 1 個</li> <li>・赤鉛筆</li> <li>・赤ボールペンは可</li> <li>・名前ペン</li> <li>・定規</li> </ul>                                                                 |
| 授業準備  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の学習の準備ができている。</li> <li>・時間を見て着席し、時間通りに授業が開始する。（チャイムが鳴ったら授業開始）※移動教室の適用。</li> <li>・移動教室は、基本クラス単位で並んで移動。</li> <li>・授業者も時間通りに授業を終えるように見通しをもって授業を行う。</li> </ul>         |
| 話す    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指名された場合はしっかり返事し、自分の考えを話す。</li> <li>・授業者は、こどもを「○○○さん」と呼ぶ。</li> <li>・聞く人の反応を感じながら話す。</li> <li>・聞く人の準備ができてから話を始めることを心がける。</li> <li>・その場に合った声の大きさを話すことを心がける。</li> </ul> |
| 聞く    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話している子の方を向き、反応したりしながら最後まで聞く。</li> <li>・自分の考えと比べながら聞く。</li> </ul>                                                                                                    |
| 書く    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆を正しく持ち、正しい姿勢で書く。（必要に応じて継続的に姿勢シートを用いる）</li> <li>・ノート等を使用する際は下敷きを敷いて書く。</li> </ul>                                                                                  |
| ノート指導 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1マスに1文字書く。（学習内容によって適宜判断）</li> <li>・直線は定規で線を引く。（範囲は学年裁量）</li> </ul>                                                                                                  |
| 所有物   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋やメモ紙が必要な場合は、学校の付箋やメモ紙を使用する。</li> <li>・教師は、必要に応じて上記の環境整備を整える。メモ帳などをもたせることも許可。</li> </ul>                                                                           |
| 授業の挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本挨拶する。授業の終わりの挨拶はこどもの学習状況でしないことも可。</li> <li>・挨拶の文言は学年裁量。</li> <li>・にじいろ学級在籍の児童が、にじいろ教室へ移動する際には、声をかけ合う。</li> </ul>                                                   |

## （２）自主学習

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 実施学年 | 高学年（４～６年）                   |
| 統一事項 | 日付け、めあて、振り返りを書くように指導する。     |
| 掲示   | 自学ノート of 取組状況を掲載し、児童の参考とする。 |

## （３）家庭学習

学習時間：学年×１０分～１５分とし、天栄中学校区に配布されている「家庭学習のてびき」を基本とする。また、「自主学習のススメ」を用いて各学年に家庭学習や自主学習の取り組む姿勢を指導する。

## （４）朝学習の取り組み

| 曜日  | 内容                             |
|-----|--------------------------------|
| 月   | 朝読（地域ボランティアによる読み聞かせ）           |
| 火木金 | 国語科を中心とした学習<br>（読む・書くワークシート＋α） |
| 水   | 委員会からのお知らせなど それ以外は学年裁量         |

※１・２年生

→週１回モーニングイングリッシュ。曜日の設定はヘンリー先生と調整を行う。

## 8 研修計画

|     |          |                   |
|-----|----------|-------------------|
| 4月  | 13日（月）   | 研修部会（本年度の方向性について） |
|     | 20日（月）   | LD事業キックオフ会議（東京）   |
|     | 21日（火）   | みえスタ5年（国・算・理）     |
|     | 22日（水）   | みえスタ4年（国・算）       |
|     | 23日（木）   | 学調6年（国・算）         |
|     | 27日（月）午前 | 学調6年（質問紙）         |
|     | 28日（火）   | 校内研修会（全体へ周知）      |
| 6月  | 25日（木）   | 校内授業研究会①          |
| 10月 | 1日（木）    | リーディングDX市内外授業公開   |
| 11月 | 24日（火）   | 校内授業研究会②          |
| 2月  | 5日（金）    | リーディングDX市内外授業公開   |
| 2月中 |          | みえスタ実施予定          |
| 3月  | 上旬       | 本研修のまとめ           |